



## 準優勝チーム

### Izakaya WA



昨年3位だったため久しぶりのシードでの大会。試合前には早めに来て体を温めることだけを意識して集合したのですが、あいにくの雨。その上寒い。1試合目は足のあるFC Japanに対し初回3点を取り、このまま勝ち逃げかと安易な気持ちで迎えた4回に同点に追いつかれてしまう。そこで円陣を組んでムードを切り替え、何とかその裏1点を取り逆転し、3-4とギリギリの勝利。この時、本番に打てない和チームが頭によぎり、野球経験者を上位打線に揃えてChiyoda Arrowheadsとの対戦…。あれこれ、寒さのせいかな雨のせいかな打線も湿りがち。その後7本のヒットで効率よく5点を取って準決勝進出。

このままあと2試合打ち勝つと決め、打順も好調打者の打順を上げて挑

んだ宿敵Comets戦。十数年前からCometsとは練習試合を含め良いライバルであり、お互い知った選手がいるのでやりやすさもある反面、やりにくさもあるチーム。それが得点にも表れ、初回4点取ってもすぐ追いつかれ、3回に1点先取するが裏に逆転されてしまう。見る方もやってる方もハラハラする試合展開。いつもならここで、ずるずると負けてしまうのですが、今年のとチームの優勝に対する執念はより強かった。7回までやりきり2点差で何とかCometsを下しました。

久しぶりの決勝戦。強豪住友ダッシュ相手にコツコツと点を取り4-2と2点リードで迎えた6回裏。浮足立ってしまったのか、優勝がちらついたのか、住友ダッシュがノーアウト満塁とする。相手チームの勢いと気迫がすごい。結果、時間切れサヨナラ負け。時間をうまく使って効率よく得点した住友ダッシュに完敗です。来年にはもう一度決勝の舞台に上がって一番大きいトロフィーを掲げたいです。

今年は雨の大会開催となった中、事故や大けがの無いように最後まで細心の注意を払っていただき、関係者の方々幹事会社の東京ガスの皆様本当にありがとうございました。(Izakaya WA監督 浅野)



## 3位チーム

### COMETS



はじめに何ヶ月も前から本大会を開催するにあたりご尽力いただいた大会関係者皆様へ、Cometsメンバーを代表してお礼申し上げます。

今年もヒューストンの短い冬から毎週のように大会前日までキャップの号令の下で優勝を目指し、全員で辛くもあり楽しい練習を積み重ねてきました。もっとも辛かった練習と云えばCometsの名物である準備運動“アップ”です。私を含めて昨年の大会から運動をしていないメンバーが多く、ボールを使っている練習開始までに既に息切れ、筋肉の張り、筋の痛みなどありましたが、その甲斐あってかメンバー全員が大きな怪我をすることなく、大会本番を迎えることができました。

Cometsメンバーはチーム設立当初より、精神的に脆いチームでした。しかし初戦の丸紅Lonestars戦の初回では、かの2023年WBCで優勝した日本代表チームの先頭打者コンビとして大活躍したヌートバー選手、近藤選手のような、我らがComets・スピードスターの先頭打者コンビが見事に活躍したことで、いつもは貧弱Comets打線に火がつき得点を重ねた結果、なんとか勝ち切りベスト8へと進出したのです。この勝利で調子付いたCometsは、Rookies戦も接戦の末に辛くも勝利しベスト4へと駒を進めるのでした。ここまでの2戦を僅差で勝利してきたCometsメンバーは平均年齢30代後半ということもあり、既に満身創痕の状態。ですが、厳しい練習を乗り切ったメンバーは気持ちだけは負けていませんでした。どんどん勝ち進むにつれ、メンバーはもちろんのこと応援していただいた方々からの声援がうなりのように大きくなり、また一体感が感じられ、“これはもしかすると優勝できるのでは”という雰囲気。しかしながら、準決勝のIzakaya WA戦では最終回に精神、体力的にも疲れ果て、勝利をつかみ取ることは残念ながらできませんでした。

STORMSとの3位決定戦では、相手の強力打線に一時は逆転を許すも、今大会が最後になる、そして最後になるかもしれないメンバーがいる中“最終戦を勝利で飾り送り出したい”その強い思いが再びメンバー全員の闘志に火を付け、持てる気力を振り絞り大逆転！初戦で負けたらどうしようと思っていたCometsが見事に3位を獲得したのでした。辛いアップや練習を毎週したこともあり、全員で勝ち取った3位という好成績は喜びもひとしおでした。来年こそは優勝だ。GO COMETS!! (Comets代表 樽谷)

